

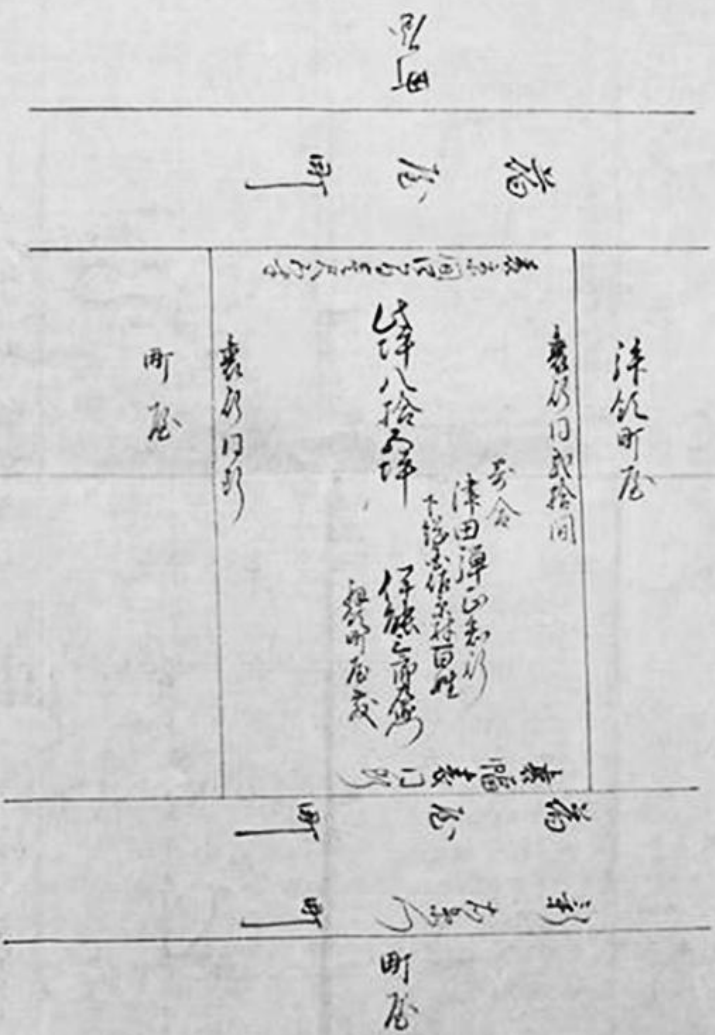
寛政十二年庚申年壬子四月蒙

台今年賑災地ニカ向一ヨリ道中の記

閏四月十九日朝九ツ前深川出立上下六人伊能忠敬由門倉集太
 平山宗平伊能秀茂カ人依宗を伴新谷の長柳五里日朝より
 小雨を降上深川八幡宮を詣まふ雨止通リ河竹司天官三寄
 之橋を去るに中酒と銘ヤ何物ハ深川分直ニ千住宿、後送以日千住宿
 送別の人ハ依宗此所より分ハ渡邊庄兵衛後伊能之妻の同セたハ
 同筆荒山細町伊勢を去るに舟五郎人籠居居氣隈居深八神田時計師
 江平舟五郎大満居八太夫の御居置其の依宗泊居幸幸の柏木幸七
 同時其の千住宿を去る舟中食酒者之其の別千住を草加宿、
 二里ハ丁草加を越八合ハ二里サハ丁越八合と並ふ番驛の大澤宿、セウ
 志して中津宿を去る舟と之の舟上宿



寛政十二年
 閏四月十九日 江戸深川兼江町 伊能忠敬隠居宅出發
 十月二十一日 帰着



着屋所迄預地之内付度拙者拜領迄 従行中付
 今日各所迄の間敷坪敷取改取成取渡右取後等

侍亦杭之通互相遠該取中付為後且仍如件

奇合

津田陣心知

下津田係系村百姓

諸人 伴能之而為

高橋地代馬子附下取

三合 下河邊改取

文政元己年九月廿日

仁叔又前八後
 尾崎吉太郎後
 所年考取津
 橋地之右邊の取